

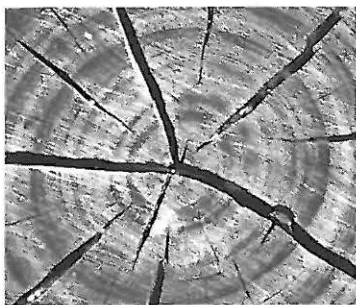


Title	保健医療人材の一員として : As a Member of Human Resources for Health
Author(s)	牧野, 孝俊
Citation	目で見るWHO. 2014, 54, p. 25-27
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86705
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka



●WHO本部でのインターシップ報告記

保健医療人材の一員として

- As a Member of Human Resources for Health -

群馬大学大学院保健研究科 助教 牧 野 孝 俊



Takatoshi MAKINO

1975年 北海道 生まれ
2000年 群馬県立医療短期大学卒
2007年 群馬大学大学院助教
2013年 群馬大学大学院卒(保健学博士)
2013年4月 世界保健機関本部インターン
2013年10月 現職へ復職

●はじめに

筆者は、2013年4月から2013年9月までの6ヶ月間、スイスのジュネーブにある世界保健機関(World Health Organization; WHO)の本部の中にある国際パートナーシップ世界保健医療人材連合(The Global Health Workforce Alliance; GHWA)にてインターンを経験した。筆者はインターン前に、保健人材教育として看護教育に10年携わり、人材育成の1つとされているチーム医療教育に関する評価を行った。そして今回、このインターンシップ経験を通して、他分野との連携が一段と求められている世界保健医療人材の現状を再認識し、自らの保健人材教育にかける情熱を高めることができた。その活動の一端を簡単に紹介する。

●GHWAとインター内容

GHWAは、2006年に保健人材の危機を解決するためのプラットフォームとして設立し、現在は厚生労働省の牛尾光宏審議官が議長を務めている。この組織の目的は、世界で直面している420万人の保健医療人材の慢性的な不足や人材の偏在、人材の他国へ流出に関する課題に関して、サービスを必要としている人々に対して効果的なヘルスケアサービスを提供するために取り組むことである。この目的を達成するために、GHWAは資源の利用やガイドラインを供給したり、必要な専門的知識・情報を供給したり、国際学

会などを開催したりしていた。筆者は、インターンとして専門的知識の供給のための研究と国際学会の企画・運営に携わらせて頂いた。



GHWAのスタッフと
(上段左から2番目が筆者)

●人材育成としてのチーム医療教育

WHOの6つの地域の1つである西太平洋地域は、約18億人の人口で世界の人口の1/4以上ある。この地域の保健人材の危機には、いくつかの先進諸国が含まれる。さらに、伝染病や医療格差、高齢化社会、慢性疾患の負担が危機的状況にある国が増加している。しかし、この地域の人口はサハラ砂漠以南のアフリカよりも多いため、保健医療人材の不足はその地域よりも深刻である。これから課題に取り組むために、WHOは5年間の保健医療人材の行動枠組みを提供している。政府の政策や国民の期待による関心の高さは、ヘルスケアシステムにおけるより効果的な協力的なアプローチを推進したり、強化したりする必要性を増加させている。多職種連携教育(Interprofessional Education; IPE)は、そのための効果的な協働として重要な役割を担っている。IPEの最終的な目標は、臨床において患者満足度が高く、質

の高い患者ケアを提供することである。

IPEは、チームワークや患者ケアの質を強化するための重要な活動として、多くの医療従事者や教育者、政策者によって高く評価されている。しかし、医師や医学部長を対象にした先行研究はたくさんあるものの、看護師や看護大学の教員を対象にした協働や医療の質を改善するためにIPEの価値があるとする報告は僅かである。このため、西太平洋地域における協働に対する看護師の障壁を概観することを目的とし、マレーシア、フィリピン、韓国、日本の4ヶ国の看護大学の教員を対象に研究に取り組んだ。今回の調査では、各国に共通する課題も浮き彫りになり、西太平洋地域における協働による医療の質を改善するという医療従事者の成功を確実に手伝えるために他職種とどのように連携するかについて、現在共同研究者と議論を行っている。

●国際学会の企画・運営

GHWAは2008年以来、保健医療人材の課題に対する解決策を見つけるために国際学会を開催してきている。2008年にウガンダで開催した第1回では、Kampala DeclarationやThe Agenda for Global Actionを世界的な保健医療人材のロードマップとしてもたらした。2011年にタイで開催した第2回では、各国政府や保健医療従事者などが、課題に対する介入の増加やリーダーシップの継続、効果的な

保健医療人材の政策の追加に対する進捗を振り返ったり、取組み内容を更新したりするために再招集された。今回の第3回は、保健医療人材の強化や課題に対する保健医療人材の政策を導き出すために2,000人以上の政策者や現場の保健医療従事者などが参加し、2013年における世界的な保健人材イベントの1つとなった。

筆者は、国際学会における Universal Health Coverage (UHC) に対する保健医療人材におけるエビデンス構築の必要性について取り組んだ。そして、国際学会の場においてUHCにおける優先度の高い新たな研究や保健医療人材の課題として、保健医療人材の不足、医師や助産師の国外流出、データベースの構築、人材の偏在、教育と臨床の連携、IT教育の構築を明らかにすることの重要性が評価された。

●おわりに

インターを経験して、理想を語れる環境、理想を語るための努力、理想を語り合う仲間があるということを実感すると共に、国際機関にしかできない大事な役割があるということを学んだ。WHOは保健・医療に関する国際基準の設定や枠組みの構築、さらに追及すると研究活動を通して「新たな知見を生み出す」という重要な役割を担っている。そして、その活動を通して援助のあるべき姿や保健政策の方向性を示し、各国政府やJICAの活動を根底から支えているという



企画・運営の一員として参加した学会場にて
(右端が筆者)



インター中に苦楽を共した仲間と
(下段右端が筆者)

ことを垣間見ることができた。これは、筆者の過去の教育経験では体験することができなかった内容であり、今後も保健医療人材の一員として、このような多くの影響を与える仕事に携わりたいと思う。

また、今回の研究や国際学会の運営・企画だけではなく、WHOでの日常業務を通して最先端の保健医療人材に対するアプローチを学ぶことができ、モチベーションを高めることもできた。

最後に、今回の活動を終始支えて下さったスーパバイザーの野崎慎仁郎教授をはじめ、GHWAのスタッフの皆様、(公社)日本WHO協会様、群馬大学大学院保健学研究科看護学講座の皆様、渡邊秀臣研究科長、WHO事務局 中谷比呂樹局長補、その他関係者の皆様にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。